

TORO®

オペレータ エンクロージャキット

Groundsmaster® 360 マルチパーパスマシン

モデル番号 31220

取り付け要領

安全について

このエンクロージャを取り付ける前に、**取り付け手順書**の説明を十分に理解してください。

エンクロージャの取り付けに際して機体を浮かせる必要があるときには、適切な支持台、ホイスト、ジャッキなどを使用してください。まず、機体がコンクリートなどのしっかりした床の上に駐車してください。エンクロージャがしっかりと保持されていないと、動いたり落下する危険があり、重大な人身事故の原因となります。

ボルト、ナット、ねじ類は十分に締めつけ、常に機械全体の安全を心掛けてください。

安全ラベルと指示ラベル

危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



98-4387

decal98-4387

1. 警告 聴覚保護具を着用のこと。

取り付け

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	タップねじ 右後アイソレータマウント 左後アイソレータマウント ボルト $\frac{1}{2}$ x 4" ロックナット $\frac{1}{2}$ " ボルト $\frac{3}{4}$ x 1 $\frac{3}{4}$ " ロックナット $\frac{3}{4}$ " 平ワッシャ $\frac{3}{8}$ " ロックナット $\frac{3}{8}$ " 打ち抜きプラグ ボタンヘッドボルト 5/16" ワッシャ 5/16"	1 1 1 2 2 2 2 2 4 4 2 3 3	車両の準備を行います。.
2	前マウント ボルト $\frac{3}{8}$ x 1 $\frac{3}{4}$ " ワッシャ ロックナット $\frac{3}{8}$ "	1 2 4 2	前マウントを取り付けます。
3	フロアマット	1	フロアマットを取り付けます。



手順	内容	数量	用途
4	エンクロージャ 平ワッシャ $\frac{3}{8}$ " ロックナット $\frac{3}{8}$ " 後上マウント ボタンヘッドボルト5/16" ワッシャ5/16" ボルト $\frac{3}{4} \times 4"$ ロックナット $\frac{3}{4}$ "	1 4 4 1 3 3 2 2	エンクロージャを取り付けます.
5	ウォッシャ液タンク ウォッシャ液タンク用ブラケット ウォッシャ液タンク用ブラケットヤンマー ワイヤハーネス 延長ワイヤハーネス キャリッジボルト $\frac{3}{8} \times 2"$ キャリッジボルト $\frac{3}{8} \times \frac{3}{4}"$ フランジナット $\frac{3}{8}$ " ボルト $\frac{1}{4} \times \frac{3}{4}"$ フランジナット($\frac{1}{4}"$)	1 1 1 1 1 2 4 6 5 5	ウォッシャー液タンクとハーネスを取り付けます。
6	ヤンマー用ホースブラケット ボルト5/16 x 2" フランジナット ヒーターホースアセンブリ キャリッジボルト5/16" ロックナット5/16" 字フィッティング ホースクランプ $1\frac{1}{2}"$ ホースクランプ1" ニップル $\frac{5}{8}"$	1 1 1 1 1 1 1 2 2 1	ヒーターホースを取り付けます.
7	必要なパーツはありません。	-	取り付けを完了する

1

車両の準備を行う

この作業に必要なパーツ

1	タップねじ
1	右後アイソレータマウント
1	左後アイソレータマウント
2	ボルト $\frac{1}{2} \times 4"$
2	ロックナット $\frac{1}{2}"$
2	ボルト $\frac{3}{4} \times 1\frac{3}{4}"$
2	ロックナット $\frac{3}{4}"$
4	平ワッシャ $\frac{3}{8}"$
4	ロックナット $\frac{3}{8}"$
2	打ち抜きプラグ
3	ボタンヘッドボルト $5/16"$
3	ワッシャ $5/16"$

手順

1. 平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜き取る。エンジンが完全に冷えるのを待つ。
2. 機体からエンジンカバーを外す。
3. $1/4" \times 6mm$ のドリルビットを使って、燃料タンクの通気ホースを ROPS 下部の後ろ側に固定しているリベットを除去する。
4. 金属パイプ/ゴムホースを外して脇に置く。

注 これは後に使用するので捨てないこと。

5. 付属のタッピングねじを使って、ROPS に空の p-クリップを取り付ける。
6. トラクションユニットにすでに刈り込みデッキが取り付けられている場合で、前アタッチメントを取り付ける予定の場合には、以下の手順でデッキを外す

注 カッティングユニットを完全に上昇させた状態では、プルリンクのトーションスプリングが軽くなるのでプルリンクをマシンから外すのが非常に容易になります。

- A. 以下の手順で、車両両側のプルリンクを外す図 1

重要 プルリンクを外すときには、必ず注意すること。プルリンクのトーションスプリングの力によって取り外し作業中に、プルリンクが回転する場合がある。

B. リテーナピンをキャリアフレームに接続しているショルダ付きねじを外す図 1。

C. キャリアフレームとプルリンクから、リテーナピンを注意深く抜き取る図 1。

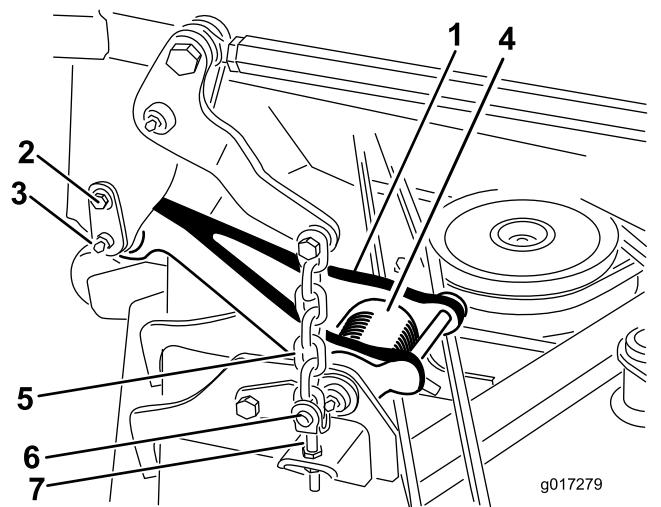


図 1

1. プルリンクデッキ上昇時
2. ショルダ付きねじ
3. リテーナピン
4. トーションスプリング
5. デッキ昇降チェーン
6. クレビスピン
7. 調整クレビス

7. 組み立てのために、刈高ブラケットのどの穴に刈高ピンが入っているかを確認しておくこと図 2。刈高ブラケットから刈高ピンを外す。

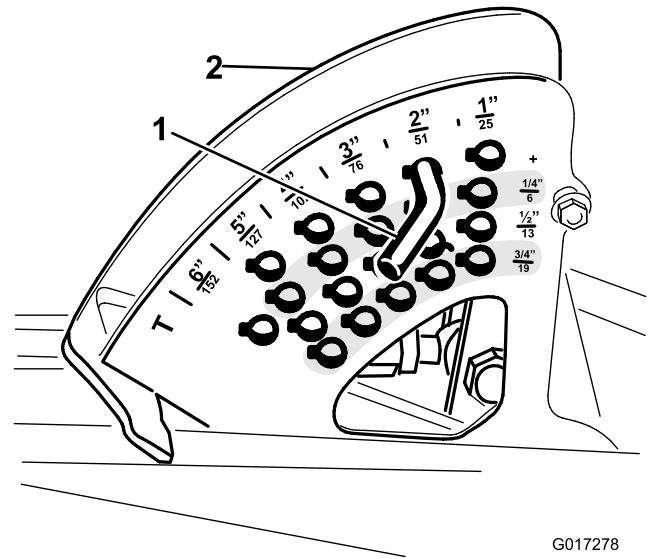


図 2

1. 刈高ピン
2. 刈高ブラケット
8. エンジンを掛け、刈り込みデッキを完全に降ろす。エンジンを止め、キーを抜き取る。

注 カッティングデッキを台車の上におろすようにすると、その後の引き出しが楽になります。

⚠ 警告

万一エンジンを始動して PTO シャフトを回転させてしまうと大きな人身事故やマシンの損傷事故につながる恐れがある。

PTO 駆動シャフトがカッティングデッキに接続されていない時にエンジンを始動して PTO スイッチを操作しないこと。

9. 以下の要領で、刈り込みデッキのギアボックスから、PTO 駆動シャフトの端部にあるヨークを外す

- A. ヨークとギアボックスのシャフトからロールピンを取り外す図 3。

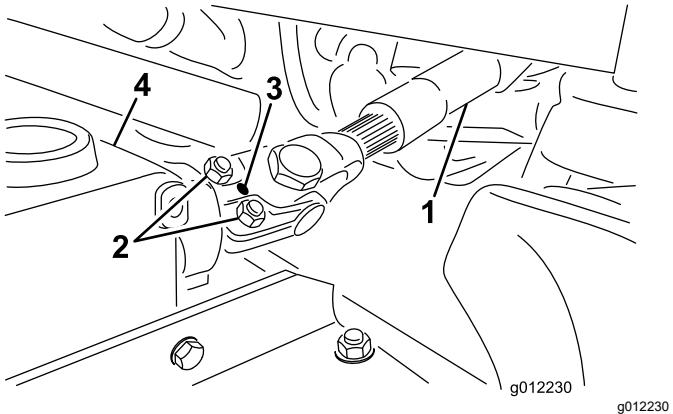


図 3

1. 駆動シャフト 3. ロールピン
2. キャップスクリュとロックナット 4. ギアボックス
ト

- B. キャップスクリュ2本とロックナットをゆるめる図 3。

- C. ギアボックスのシャフトからヨークを抜き取る。

10. デッキの昇降チェーンをカッティングデッキの調整クレビスに固定しているリングピン4本とクレビスピンを取り外す図 1。

11. カッティングデッキを機体から引き出して遠ざける。

注 刈高ピンを刈高ブラケットに収納する際には、エンクロージャとの干渉を回避するために、図 4 に示すように外から中へ取りつけるようにしてください。

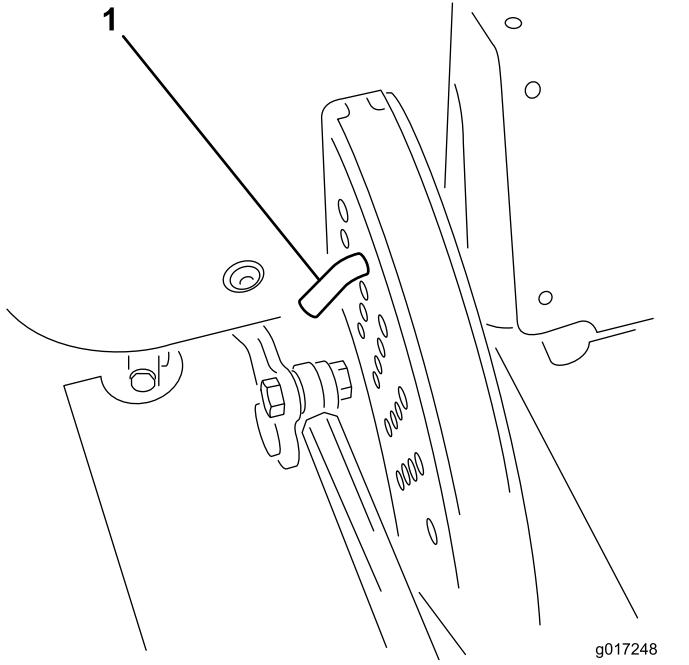


図 4

1. 刈高ピン

12. ROPS ピンを内側から差し込んだ状態で、ROPS ピボットボルトを外して廃棄する図 5。

13. 右後部アイソレータマウントを 図 5 のように向けて図は右側、新しいボルト $\frac{1}{2} \times 4"$ とワッシャ $\frac{1}{2}"$ を外側から内側に向けてヘッドの下に取り付ける。

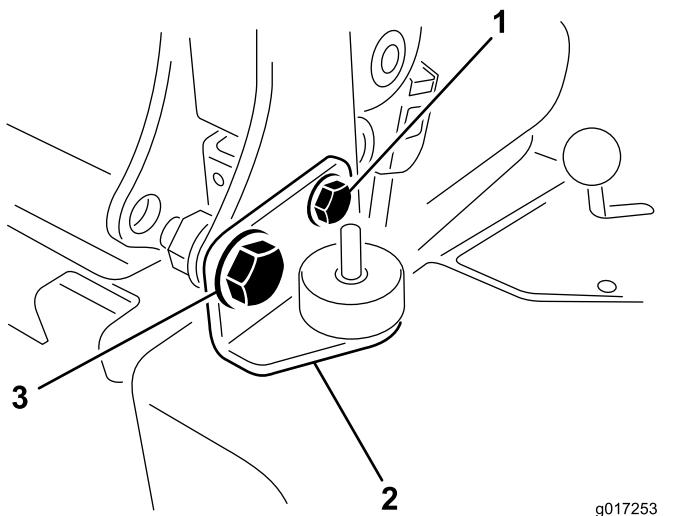


図 5

1. ROPS のピボットボルト 3. ボルト、ワッシャ、ロックナット
2. 後アイソレータマウント

14. ROPS のピンについているリテーナワッシャを外して、これを ROPS の内側に取り付け、ワッシャ $\frac{1}{2}"$ とロックナット $\frac{1}{2}"$ で図 5 のように固定する。

- アイソレータ後部を、ROPSに取り付ける六角ヘッドボルト $\frac{3}{4} \times 1\frac{3}{4}$ "1本、ワッシャ $\frac{3}{4}$ "、ロックナット $\frac{3}{4}"$ を使用して図5のように取り付ける。
- 同じ手順で、左後アイソレータ・マウントも取り付ける。

ホースの通り道を確保するクボタエンジン搭載機のみ

- 図6に示す寸法にしたがって、シートの後ろにあるプラスチックのコーナー部を加工して、エンクロージャからくるホースとワイヤハーネスが通れる隙間をつくる。ノッチは両方とも幅50 mm、高さ32 mmとする。

重要燃料タンクや油圧オイルタンクを削り込んでしまわないように注意してください。

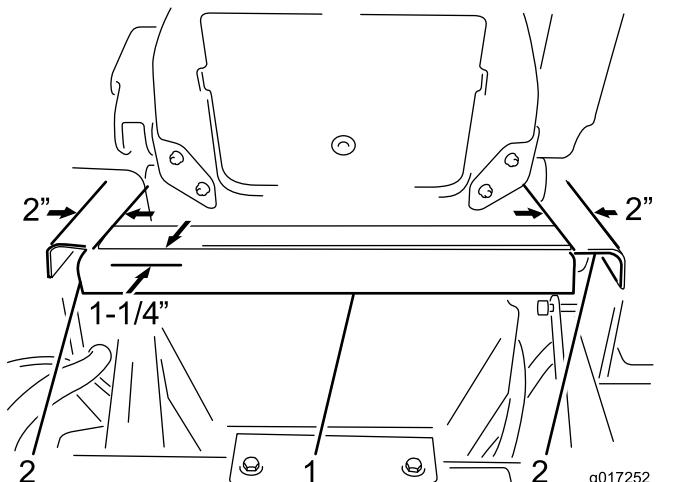


図6
図は完成状態

- 運転席後ろのプラスチック 2. 切り落としたコーナー部

注座席後部のプラスチックの角部の切り落としをやりやすくするために、物入れを外す。

- 収納部サポートブラケットをフレームに固定している2本のフランジヘッドねじを外す図7。

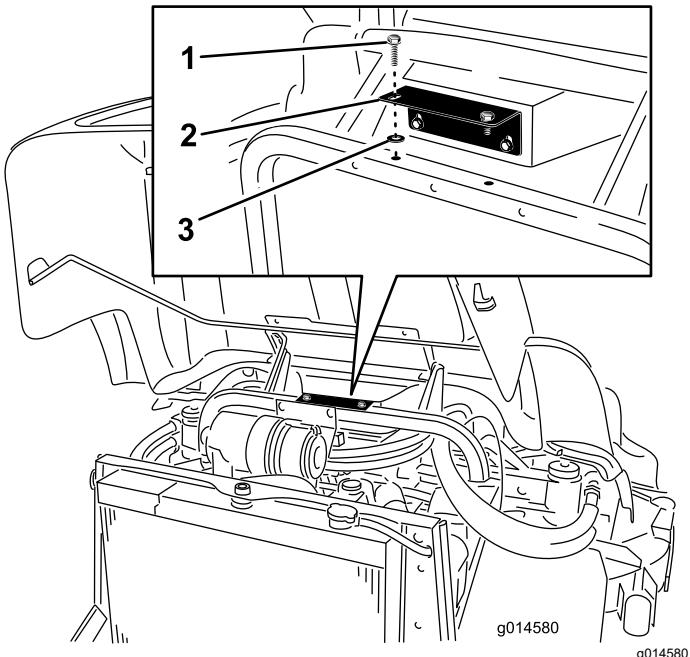


図7

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. フランジヘッドボルト | 3. プッシュナット必要に応じ |
| 2. 収納部サポートブラケット | |
-
- 物入れを外す。
 - 加工が終了したら、物入れを元通りに取り付ける。

2

前マウントを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	前マウント
2	ボルト $\frac{3}{8} \times 1\frac{3}{4}"$
4	ワッシャ
2	ロックナット $\frac{3}{8}"$

手順

- 前カバーを前アクスル上部に固定しているフランジヘッドボルト2本を外す図8。

3

フロアマットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

- | | |
|---|--------|
| 1 | フロアマット |
|---|--------|

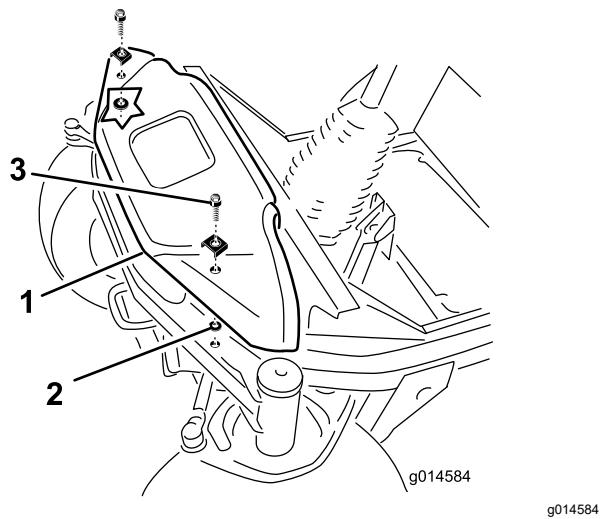


図 8

1. 前カバー
 2. プッシュナット必要に応じ
 3. フランジヘッドボルト
-
2. 前マウントをフロアプレートに固定するボルト $\frac{3}{8} \times 1\frac{3}{4}$ "2本、ワッシャ $\frac{3}{8}$ "4枚、ロックナット $\frac{3}{8}$ "2個を使用する。
前マウントは、図9のようにセットする。
 3. 前カバーを前アクスルに固定するフランジヘッドボルトを使用する。

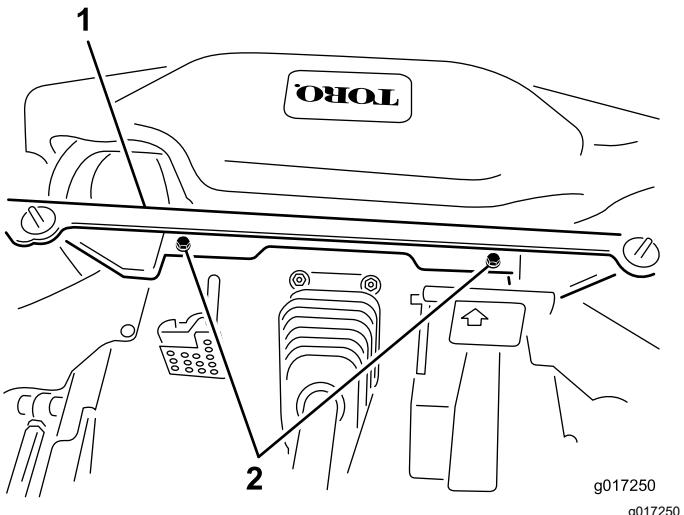


図 9

-
1. 前マウント
 2. ボルト、ワッシャ、ロックナット

手順

1. ブレーキペダルの上からフロアマットを被せ、マットについているスリットを使って、走行ペダルを取り囲むようにマットを敷く図10。

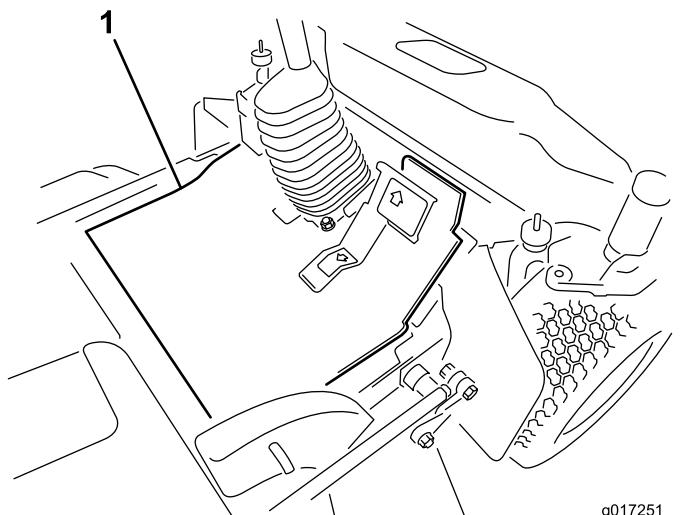


図 10

-
1. フロアマット
 2. マットの後端部をシートベースの下に引き込み、マットがどちらのペダルにも干渉しないように、位置を調整する。
 3. フロアマットの取り付け終了後、ステアリングハンドルを運転席に向かって一杯に倒すエンクロージャを取り付ける時にハンドルを壊してしまわないように。

4

エンクロージャを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	エンクロージャ
4	平ワッシャ $\frac{3}{8}$ "
4	ロックナット $\frac{3}{8}$ "
1	後上マウント
3	ボタンヘッドボルト $5/16$ "
3	ワッシャ $5/16$ "
2	ボルト $\frac{3}{4} \times 4"$
2	ロックナット $\frac{3}{4}"$

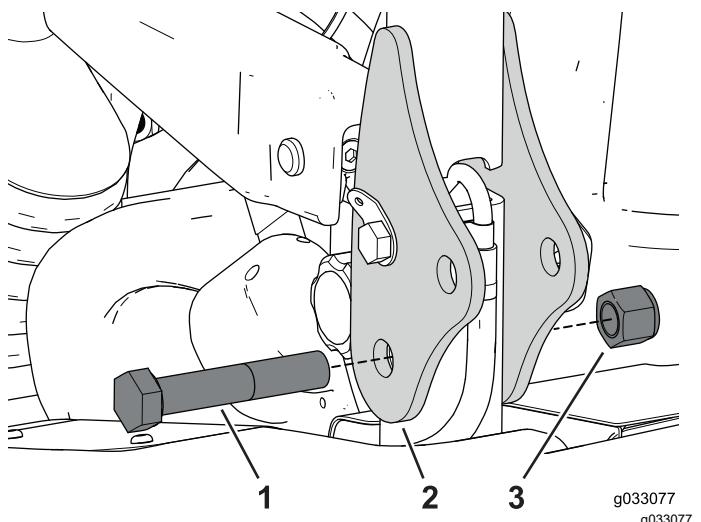


図 11

g033077
g033077

手順

- 以下の手順で、エンクロージャについている左右のドアを外す
 - まず、エンクロージャのフレームに取り付けられているガススプリングがドアと一緒に外れてくるように、ガススプリングのフレーム側を外す。
 - ガススプリングを外すには、オレンジ色のタブを親指で押し、ロッキングピンが立ち上がったら引き抜く。
 - 各ドアは、前後に軽く回転させながら、真っ直ぐに上に持ち上げて外すこと。

重要ドアを完全に開いてしまうと後のサイドウインドウが割れるので注意すること。
- ROPSについている引き手を取り外して、ボルト $\frac{3}{4} \times 4"$ とロックナットに交換する図 11。

- 適当なホイストを用意し、吊り上げ用のストラップをエンクロージャの屋根の周囲とフレームとに図 12のように玉掛けする。

バランスよく吊り上げられるように、ストラップはボールスタッドの正面ドアスプリングが取り付けられていた場所に直接当たるように取り付ける。

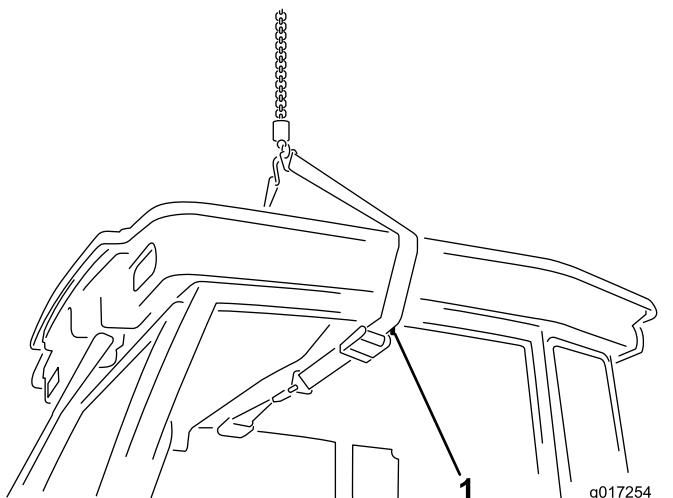


図 12

g017254
g017254

- エンクロージャのボールスタッド
- エンクロージャがパレットから落ちないように、ストラップで吊り上げておく。
- エンクロージャの重量のために屋根がつぶれて変形するが、エンクロージャの取り付けが終われば元通りの形状に戻る。
- エンクロージャの4すみを台木に固定しているボルト $\frac{3}{8}" 4$ 本を外して廃棄する。

- 外れた台木前側2本、後側1本は保管しておいて、エンクロージャを取り外した際の格納台として使用するとよい。
6. エンクロージャを車両の上に吊り上げ、ROPSバーがエンクロージャの中に入るようゆっくりと車体上に降ろす。

重要クボタエンジン搭載機では、ホースやワイヤーハーネスがエンクロージャに挟まれたりせずに、運転席後部に作った穴から適切に配設されるように注意してください。

ヤンマーエンジン搭載機では、ホースを電装センターの左側に沿って配設する。センターを前に倒すと作業がしやすくなります。

 7. エンクロージャは、ゴム製のアイソレータマウントから突き出ている4本のスタッドねじ山付きロッド前2本、後2本の上に降ろす。

注もし、エンクロージャの取り付け穴とマウントのスタッドがあわない場合には、アイソレータ取り付けブラケットの固定ボルトをゆるめて位置合わせを行ってから、ブラケットを元のように締め直してください。

 8. エンクロージャをアイソレータに固定する平ワッシャ $\frac{3}{8}$ "4枚とロックナット $\frac{3}{8}$ "4個を使用する。締め付けの前に、エンクロージャの玉シールがマシンと面一になっていることを確認すること。
 9. プラスチック製のホールプラグをフロアボード正面のアクセスホールに取り付ける。
 10. ROPSバーの上部位置に後上マウントを取り付ける後上マウントについている3枚のタブを、エンクロージャについているスロットに差しこみ、マウントをひねると取り付けることができる。ボタンヘッドボルト5/16"-183本とスチールワッシャ5/16"3枚で固定する。ボルトの取り付け時に、溶接されているナットをナメてしまわないように注意すること図13。

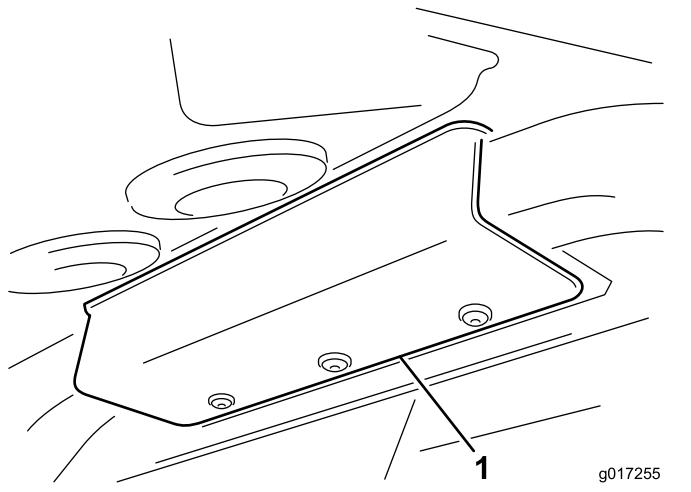


図 13

1. 後上マウント

11. エンクロージャの外側から、金属タンクの通気ライン先ほど外したもののが真っ直ぐな端部を、後パネルの左下側にあるゴム製グロメットに通すように押し込む。
12. ゴム製のラインが、ゴム製のインソレーションマウントよりも上に出るようになり、ベントラインの開口端ブレーキがエンクロージャの外側で下向きになり、水や異物が浸入できないようにゴム製ラインを調整する図14。

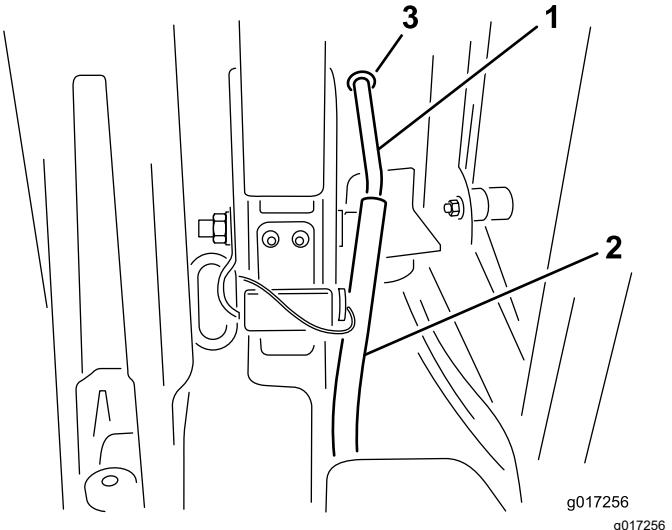


図 14

1. 金属タンクの通気ライン
2. ゴム製の通気ホース
3. エンクロージャ内部からのグロメット

5

ウォッシャー液タンクとハーネスを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ウォッシャー液タンク
1	ウォッシャー液タンク用ブラケット
1	ウォッシャー液タンク用ブラケットヤンマー
1	ワイヤハーネス
1	延長ワイヤハーネス
2	キャリッジボルト $\frac{3}{8} \times 2"$
4	キャリッジボルト $\frac{3}{8} \times \frac{3}{4}"$
6	フランジナット $\frac{3}{8}"$
5	ボルト $\frac{1}{4} \times \frac{3}{4}"$
5	フランジナット($\frac{1}{4}"$)

- キャリッジボルト $\frac{3}{8} \times \frac{3}{4}"$ 4本とフランジナットを使って、ウォッシャー液タンクをブラケット固定する図 16。

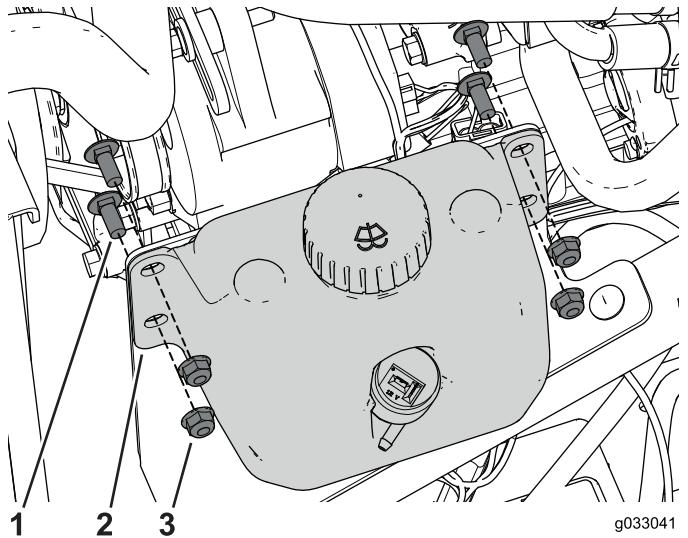


図 16

- キャリッジボルト $\frac{3}{8} \times \frac{3}{4}"$
- ウォッシャー液タンク
- フランジナット

ウォッシャー液タンクを取り付ける ヤンマーエンジン搭載機のみ

- ボルト $\frac{3}{8} \times 2"$ 2本とフランジナットを使って、ウォッシャー液タンクをフレーム右側に取り付ける図 15。

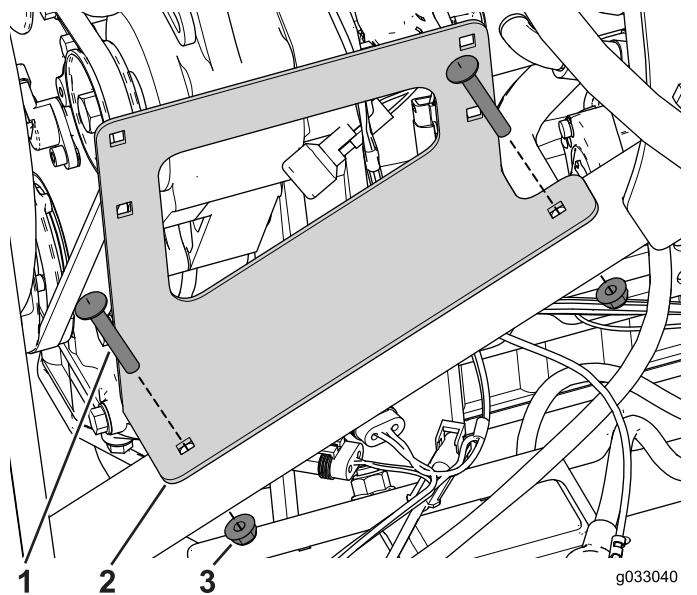


図 15

- ボルト $\frac{3}{8} \times 2"$
- ウォッシャー液タンク用ブラケット
- フランジナット

ウォッシャー液タンクを取り付ける クボタエンジン搭載機のみ

- ラジエターハウジングの左側からボルトを外し捨てないこと、図 17 のように、ウォッシャーボトル・ワイヤハーネス・アセンブリを配置する。

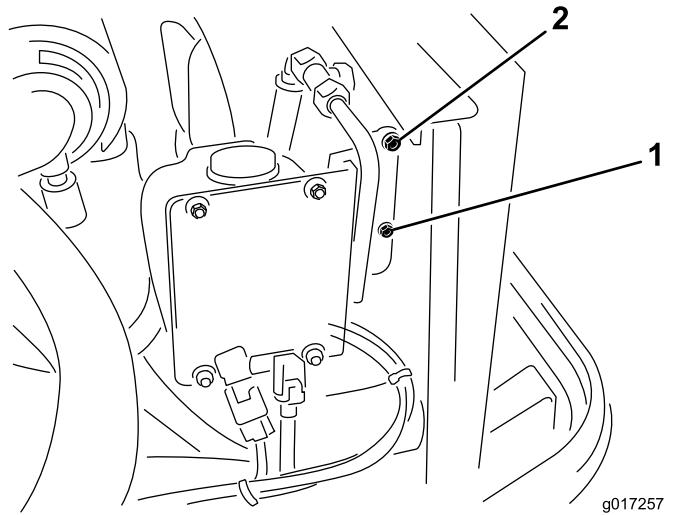


図 17

- ラジエターハウジングのボルト
- ワオッシャーブラケットの穴にボルトを通す。

- ウォッシャーブラケットの上穴を、 $\frac{1}{4}$ " ボルトと $\frac{1}{4}$ " ロックナットで固定する。ナットが外側にくるようすること。

ワイヤハーネスを接続する

- バッテリーのプラス端子のナットを外して、図 18 のように、Battery Positive と書かれた赤いケーブルのリング端子を取り付け、ナットで元通りに締め付ける。
- バッテリーのマイナス端子のナットを外し、Battery Negative と書かれた黒いケーブルのリング端子をボルトに取り付け、ナットで元通りに締め付ける。

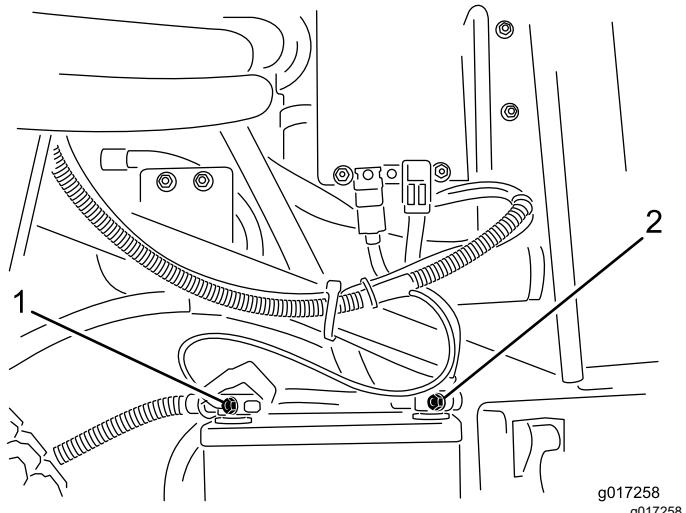


図 18

- バッテリーのプラス端子 2. バッテリーのマイナス端子
- トラクションユニットの既存のワイヤハーネスに沿って、新しいワイヤハーネスとワッシャー ホースをエンクロージャの前部へ引き出してフレームに沿って立ち上げ、高温部や可動部や鋭利な部分に触れないようにケーブルタイまとめて縛る。
- エンクロージャからきているプラグに、図 19 のように3端子ソケットを接続する。

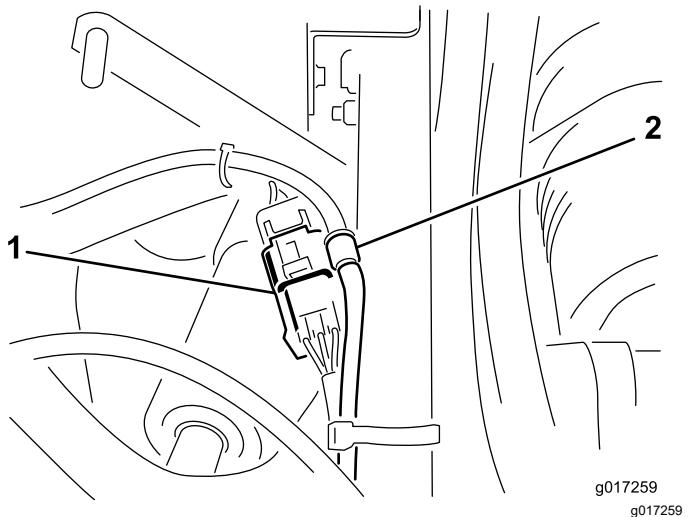


図 19

- 3端子ソケット
- エンクロージャからきているホース

注 ヤンマーエンジン搭載機では、ハーネスはエンジンの反対側を通すことが必要です。バッテリーとキャブとの間に、キット付属の 460 mm の延長ハーネスを使用してください。

- エンクロージャの紫色の線イネーブルワイヤを、トラクションユニットのワイヤハーネスに接続する。
 - クボタエンジン搭載機のエンクロージャ用イネーブルワイヤは、エンジルームの左側にある緑色の線です。
 - ヤンマーエンジン搭載機のエンクロージャ用イネーブルワイヤは、エンジルームの右側にある緑色の線です。

組み立てを完了する

- エンクロージャから来ているホースにウォッシャーのホースを取り付ける。
- ウォッシャーのボトルにウインドウォッシャー液を入れる冬期に凍結しないものを選ぶこと。
- キーをON位置に回しエンジンは始動させない、コンソールが正常に機能していることを確認する。
- 各機能に問題がなければ、キーをOFF位置に戻す。

6

ヒーターホースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ヤンマー用ホースブラケット
1	ボルト5/16 x 2"
1	フランジナット
1	ヒーターホースアセンブリ
1	キャリッジボルト5/16"
1	ロックナット5/16"
1	字フィッティング
2	ホースクランプ1½"
2	ホースクランプ1"
1	ニップル5/8"

ヒータ用ハーネスを取り付けるヤンマーエンジン搭載車

- 図20に示された位置に、穴直径8.7 mmを開ける。

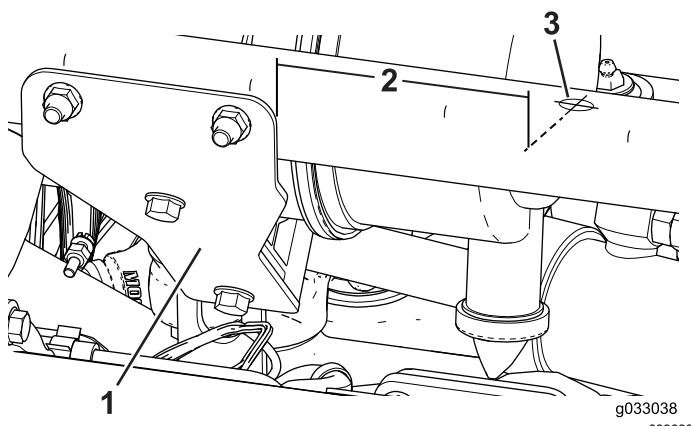


図20

- エアクリーナーのプレート
- 130 mm
- 穴直径8.7 mm

- ボルト5/16 x 2"を使って、ホースブラケットをフレームに固定する図21。

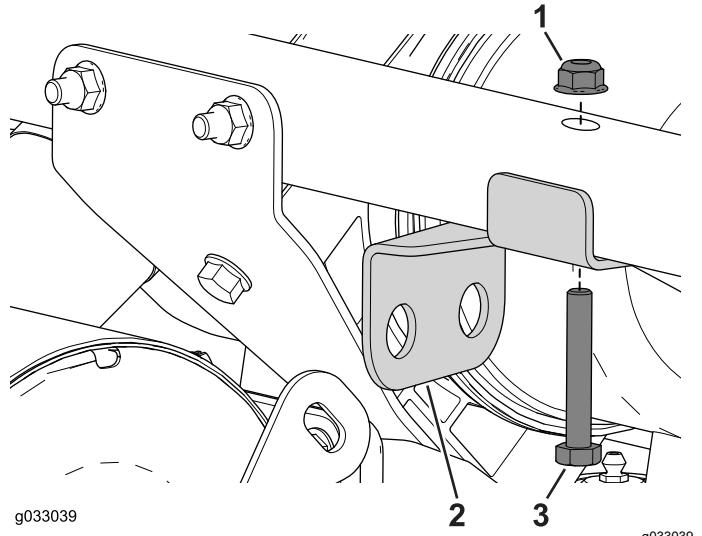


図21

- フランジナット5/16"
- ホースブラケット
- ホースが機械の可動部、高温部、鋭利な部分を確実に避けるようにすること。

長いホースをフレームの外側、冷却液補助タンクの下へ通し、そこからクロスチューブの周囲を通って最後にブラケットに向かうように配設する。短い方のホースを、フレームの内側に通し、長いホースに合流してクロスチューブの内側に配設する。ホースを折り曲げてしまわないよう、急な曲げを作らないように注意すること。

- ホースを車体フレームに取り付けるエンジンカバーの支え棒がホースを突き刺さないように、図24のようにケーブルタイを使用すること。
- ラジエターのドレンプラグの下に受け容器をおく。

▲ 注意

高温高圧の冷却液を浴びたり、高温のラジエター部分に触れたりすると大火傷をする恐れがある。

- エンジンが高温のうちは、ラジエターのプラグを抜かないこと。プラグを抜く時には、必ず、ラジエターが十分に冷えるまで15分ぐらい待ってから行うこと。
- ラジエターや周囲の高温部分に触れないように注意すること。

- ラジエターの下ホースの下に受け容器をおく。
- ドレンプラグを抜き取り、排出されるラジエター液を容器に回収する。
- 下ラジエターホースを直線部分の中央で切断し、冷却系統に残っている冷却液を回収する。
- T-字フィッティングを取り付けるバーブ鋸歯を図22のように下に向けること。

10. ホースクランプ $1\frac{1}{2}$ " 2 個を使って固定する。

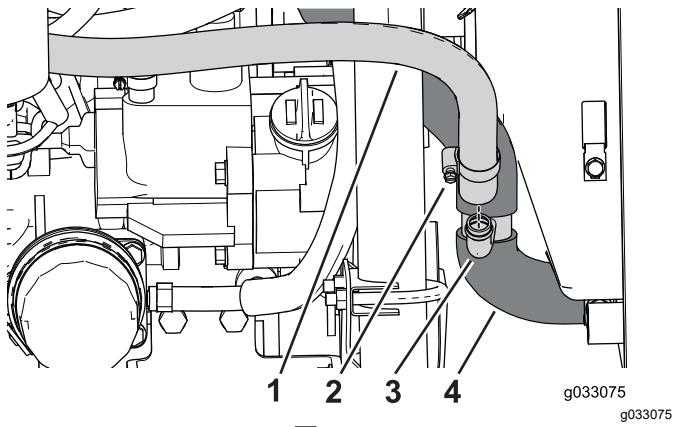


図 22

- 1. 長いホース
- 2. ホースクランプ
- 3. 字フィッティング
- 4. ラジエターの下ホース

11. 付属品のニップル $\frac{5}{8}$ " のねじ山部分にテフロンテープを巻き、ウォーターポンプのプラグを外し、プラグの代わりにニップルを取り付ける。

12. 短い方のヒーターhosseをニップルに取り付け、ホースクランプ $1"$ で固定する図 26。

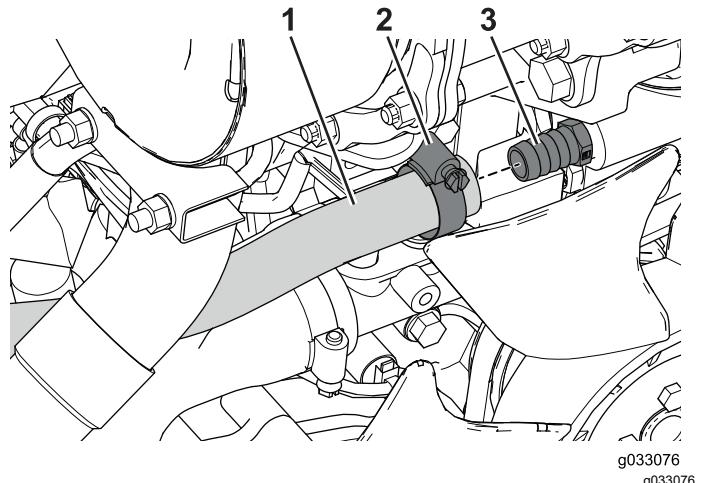


図 23

- 1. ヒーターhosse短い方
- 2. ホースクランプ
- 3. バーブ付きフィッティング $\frac{3}{8}$ " NPT x $\frac{5}{8}$ " バーブ

13. 長いホースと短いホースをケーブルタイで固定するホースが折れないように、また高音部や可動部、鋭利な部分に触れないようにすること。

14. クイックコネクトフィッティングを塞いでいるキャップ2個を外し、キャップに異物が付かないように、キャップ同士を嵌め合わせる。エンクロージャからのフィッティングをトラクションユニットに取り付ける。

15. ラジエターキャップを外して冷却液を入れる。ラジエターリーの仕様についてはトラクションユニット

のオペレーターズマニュアルを参照。キャップを取り付ける。

16. スイッチパネルについている温度コントロールノブを HOT 位置にセットし、エンジンを始動してコンソールに入っていくヒーターhosseが暖かくなっていることを確認する。暖かくなつてこない場合には、コンソーススイッチのノブを中間位置にセットしてもう一度確認する。

それでも暖かくならない場合には、冷却液を追加する必要があるだろう。エンジン停止後、温度が十分に下がるのを待ってからキャップを開けること。

17. エンジンが完全に冷えるのを待つ。ラジエターキャップを開け、必要に応じて冷却液を追加する。エンジンカバーを取り付ける。

ヒーター用ハーネスを取り付けるクボタエンジン搭載車

1. 車体についている穴を利用して、車体フレームにホースブラケットを取り付ける $5/16$ " のキャリッジボルト1本と、 $5/16$ " のロックナットを使い、図 24 のように取り付ける。

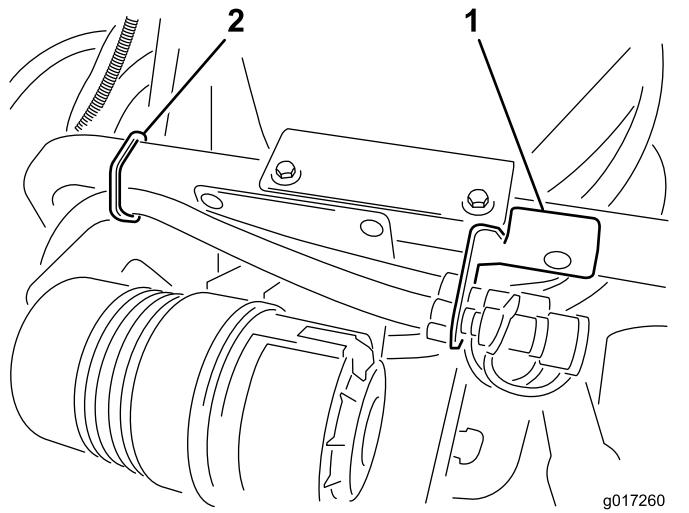


図 24

- 1. ホースブラケット
 - 2. ケーブルタイ
2. ホースが機械の可動部、高温部、鋭利な部分を確実に避けるようにすること。
短いホースを、エアクリーナをまわり込むようにして下へ、サーモスタットハウジングへ導く。長いホースは、エアクリーナをまわり込むようにして下へ、ラジエターベースに沿って配置する。ホースを折り曲げてしまわないよう、急な曲げを作らないように注意すること。
3. ホースを車体フレームに取り付けるエンジンカバーの支え棒がホースを突き刺さないように、図 24 のようにケーブルタイを使用すること。
4. ラジエタードレンプラグの下に受け容器をおく。

▲ 注意

高温高圧の冷却液を浴びたり、高温のラジエーター部分に触れたりすると大火傷をする恐れがある。

- エンジンが高温のうちは、ラジエーターのプラグを抜かないこと。プラグを抜く時には、必ず、ラジエーターが十分に冷えるまで15分ぐらい待ってから行うこと。
 - ラジエーターや周囲の高温部分に触れないように注意すること。
5. ラジエーターの下ホースの下に受け容器をおく。
 6. ドレンプラグを取り、排出されるラジエーター液を容器に回収する。
 7. 下ラジエーターhosを直線部分の中央で切断し、冷却系統に残っている冷却液を回収する。
 8. T字フィッティングを取り付けるバーブ鋸歯を 図25のように下に向けること。
 9. ホースクランプ1½" 2個を使って固定する。長い方のホースをバーブに取り付けて小さい1"ホースクランプで固定する。

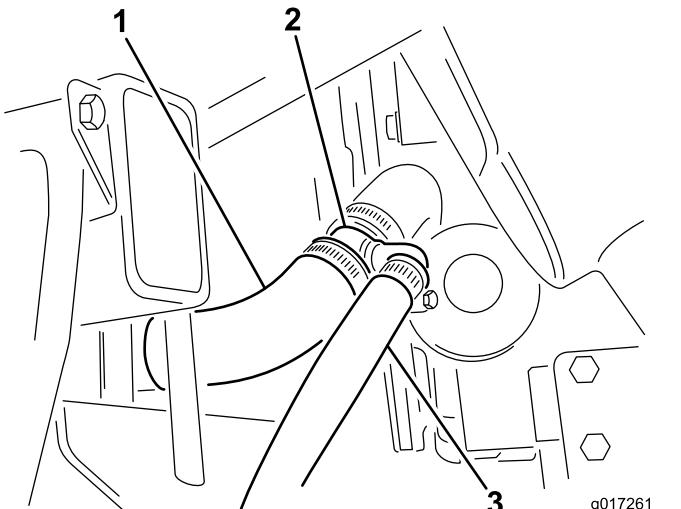


図 25

1. ラジエーターの下ホース
2. 字フィッティング
3. 長いホース

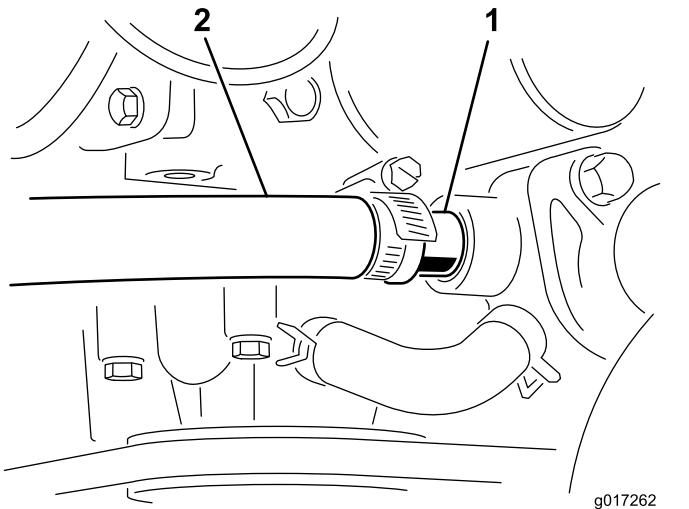


図 26

1. テフロンテープ
2. ヒーターホース短い方
12. 長いホースと短いホースをケーブルタイで固定するホースが折れないように、また高音部や可動部、鋭利な部分に触れないようすること。
13. 付属品のデュアル温度スイッチのねじ山部分にテフロンテープを巻き、右側のスイッチが取り付けられていた場所に図27のように取り付ける。
14. 右側スイッチから来ているワイヤをスイッチのブレードに接続し、温度スイッチのワイヤを、左側スイッチからのワイヤに接続する。

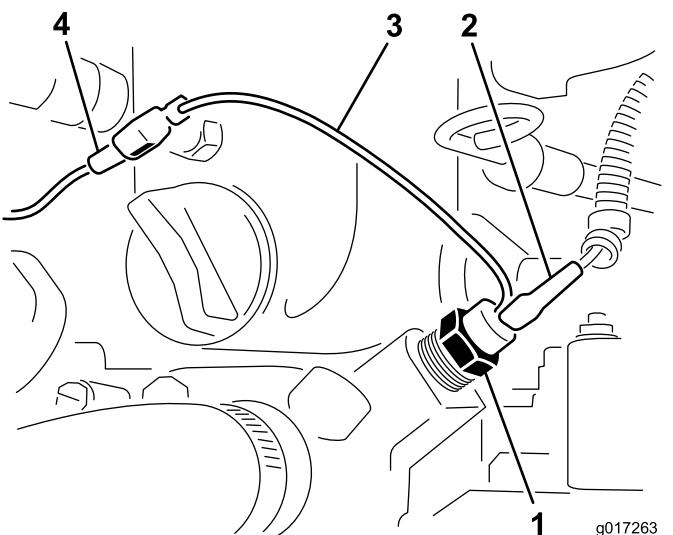


図 27

1. 温度スイッチ
2. 右側スイッチからのワイヤ
3. 温度スイッチのワイヤ
4. 左側スイッチからのワイヤ

10. サーモスタットスイッチ2個に接続されている電気コードを外す。この2つのスイッチを外して廃棄する。
11. 付属品のニップル $\frac{5}{8}$ "のねじ山部分にテフロンテープを巻き、左側のスイッチが取り付けられていた場所に取り付ける。短い方のヒーターhosをニップルに取り付け、ホースクランプ1"で固定する図26。
15. クイックコネクトフィッティングを塞いでいるキャップ2個を外し、キャップに異物が付かないように、キャップ同士を嵌め合わせる。エンクロージャからのフィッティングをトラクションユニットに取り付ける。

16. ラジエーター・キャップを外して冷却液を入れる。ラジエーター液の仕様についてはトラクションユニットのオペレーターズマニュアルを参照。キャップを取り付ける。
17. スイッチパネルについている温度コントロールノブを HOT 位置にセットし、エンジンを始動してコンソールに入っていくヒーター・ホースが暖かくなっていることを確認する。暖かくなっている場合には、コンソーススイッチのノブを中間位置にセットしてもう一度確認する。
それでも暖かくならない場合には、冷却液を追加する必要があるだろう。エンジン停止後、温度が十分に下がるのを待ってからキャップを開けること。
18. キャップを開けた状態でエンジンが完全に冷えるのを待ち、必要に応じて冷却液を追加する。エンジンカバーを取り付ける。

7

取り付けを完了する

必要なパーツはありません。

手順

1. ヘッドライトの照射方向を調整する。調整の具体的な要求事項については、ASABE S608 またはそれぞれの地域における規制を参照のこと。
2. バックミラーの調整を行う。
3. 最初に外しておいた左右のドアを元通りにヒンジピンに取り付けるドアがヒンジに完全に嵌っていることを確認し、ガススプリングをボールスタッドに接続する。ドアを完全に開いてしまうと後ろのサイドウインドウが割れるので注意すること。

運転操作

コンソールの機能

コンソールの機能は 図 28 にまとめてあります。各スイッチのすぐ上に、押しボタンリセット式の回路ブレーカがついています。もし、これらのブレーカのボタンが飛び出してください、数分間待ってから、ボタンをもう一度押し込んでください。もしも、またボタンが飛び出してくれるようであれば、その機能の使用を中止して原因を究明してください。

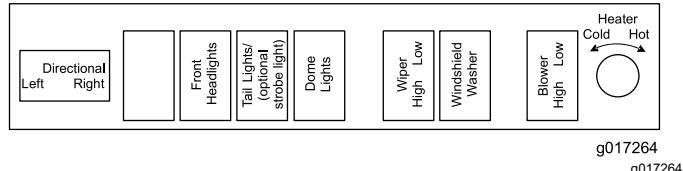


図 28

車両前部用アタッチメント

車両前部にアタッチメントを取り付けて使用する場合には、刈り込みデッキを外し、駆動シャフトを前部用PTOに接続する必要があります。

保守

各締結部の点検と再締め付け

8運転時間後に各締結部の点検および締め付けを行ってください。その後も、各部にゆるみがでていないか定期的に点検し必要に応じて締め付けを行ってください。

エンクロージャの洗浄

マイルドな石鹼または洗剤を使って手洗いし、こびりついているごみやほこりを落としてください。圧力洗浄器は使用しないようにしてください。エンクロージャ内部に水やごみを入れてしまうことが予想され、コンソール部に漏電などを起こす恐れがあります。

エアフィルタの交換

エンクロージャにはエアフィルタが備え付けられていますので、これを定期的に点検してください。フィルタが汚れてきたら、交換してください。

エンクロージャの取り外し

1. 平らな場所に駐車し、タイヤに輪止めを掛け、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。エンジンが完全に冷えるのを待つ。
2. エンジンカバーを開け、ヒーターのフィッティング図22と図26、電気系統のプラグ図19、ウォッシャーのホースを外す。
ウォッシャーのホースのワンウェイバルブプラスチック製は車両側に残すこと。
3. フィッティングが取り付けてあった場所にゴム製の保護カバーを取り付けて、ごみなどがここから冷却系統に侵入しないようにする。
4. 以下の手順で、エンクロージャについている左右のドアを外す
 - エンクロージャのフレームに取り付けられているガススプリングがドアと一緒に外れてくるよう、ガススプリングのフレーム側を外す。
 - ガススプリングを外すには、オレンジ色のタブを親指で押し、ロッキングピンが立ち上がったら引き抜く。
 - 各ドアは、前後に軽く回転させながら、真っ直ぐに上に持ち上げて外すこと。

注ドアを完全に開いてしまうと後ろのサイドウインドウが割れるので注意すること。

5. エンクロージャの後ろで、金属製の通気ラインをゴム製グロメットから抜き取る図14。ゴム製グロメットは車両側に残すこと。金属製の通気管は、あとから再取り付けするので、脇においておく。

6. 上部後マウントをROPS周囲に固定しているボタンヘッドボルト5/16"3本とスチールワッシャ5/16"3枚を外し、マウントを下方に倒すように回転させて外す。ボルトとワッシャは保管図13。
7. エンクロージャの4すみにあってゴム製のアイソレータに取り付けられているロックナット $\frac{3}{8}$ "4個と平ワッシャ $\frac{3}{8}$ "を取り外して保管する。アイソレータは車両側に残しておく。
8. エンクロージャを取り外す時にハンドルを壊してしまわないように、ステアリングハンドルを運転席に向かって一杯に倒す。
9. 適当なホイストを用意し、吊り上げ用のストラップをエンクロージャの屋根の周囲とフレームとに玉掛けする。バランスよく吊り上げられるように、ストラップはボールスタッドの正面ドアスプリングが取り付けられていた場所に直接当たるように取り付ける図12。エンクロージャを注意深く車両から吊り上げる。ホースやワイヤーハーネスが破損せずに運転席後部に作った穴から適切に外れるように注意すること。
10. エンクロージャを保管台出荷時に使われていた台がよいの上におろし、ボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"2本とロックナットで前部を固定し、ボルト $\frac{3}{8}$ " x 2"2本とロックナットで後部を固定する。
11. フロアマットを取りのぞく。
12. 前マウントをフロアボードに固定しているボルト $\frac{3}{8}$ "2本を取り外す。前マウントを取り外す図9。
13. 後アイソレータマウントを取り外す最初に、ボルト $\frac{3}{4}$ "1本をはずし、次にROPSピボットボルトを外す。プラケットを外したら、ROPSピボットボルトを取り付ける図5。
14. 最初に外しておいた左右のドアを元通りにヒンジピンに取り付けるドアがヒンジに完全に嵌っていることを確認し、ガススプリングをボールスタッドに接続する。
15. ゴム製の通気ホースを金属製の通気ラインに接続する。左下のROPSチューブからR-クランプを取り外し、金属製通気ラインをこのRクランプに通す。RクランプをROPSチューブに取り付ける金属製チューブを前方に向けて取り付けること。

重要ドアを完全に開いてしまうと後ろのサイドウインドウが割れるので注意すること。

刈り込みデッキの取り付け

- 機体のキャリアフレームの下に、刈り込みデッキを押し入れる。
- リングピン4本とクレビスピンを使って、昇降チェーンをデッキの調整クレビスに固定する図 29。

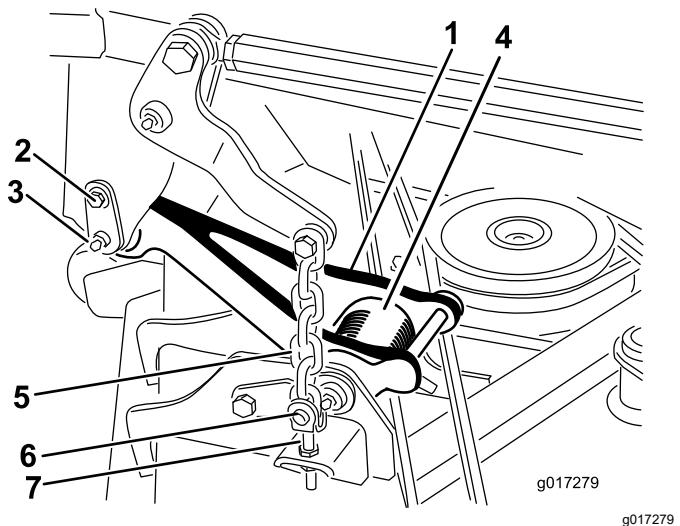


図 29

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. プルリンクデッキ上昇時 | 5. デッキ昇降チェーン |
| 2. ショルダ付きねじ | 6. クレビスピン |
| 3. リテーナピン | 7. 調整クレビス |
| 4. トーションスプリング | |

- 以下の要領で、刈り込みデッキのギアボックスに PTO 駆動シャフトの端部にあるヨークを接続する
 - 駆動シャフトのヨークのスプラインとロールピンの穴を、ギアボックスのスプラインと穴に合わせる。
 - ギアボックスのシャフトにヨークを差し込む。
 - ロールピンを使って、ヨークを刈り込みデッキのギアボックスに固定する図 30。

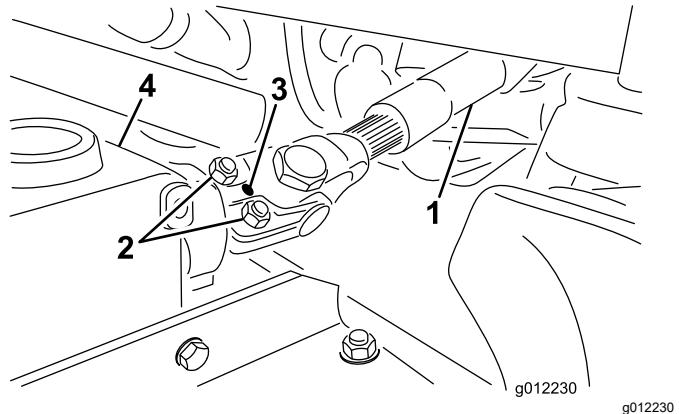


図 30

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 駆動シャフト | 3. ロールピン |
| 2. キャップスクリュとロックナット | 4. ギアボックス |

D. ヨークとギアボックスを接続しているロックナットを締め付ける図 30。ロックナットを 175-225 in-lb 20-25 N·m=2.0-2.6 kg.mにトルク締める。

- エンジンを掛け、刈り込みデッキを完全に上昇させる。エンジンを止め、キーを抜き取る。
- プルリンクをキャリアフレームに合わせて、リンクをリテーナピンで接続する図 29。リテーナピンは、ショルダねじでフレームに固定する図 29。
- 希望の刈高に合わせて、刈高ブラケットに刈高ピンを取りつける図 31。

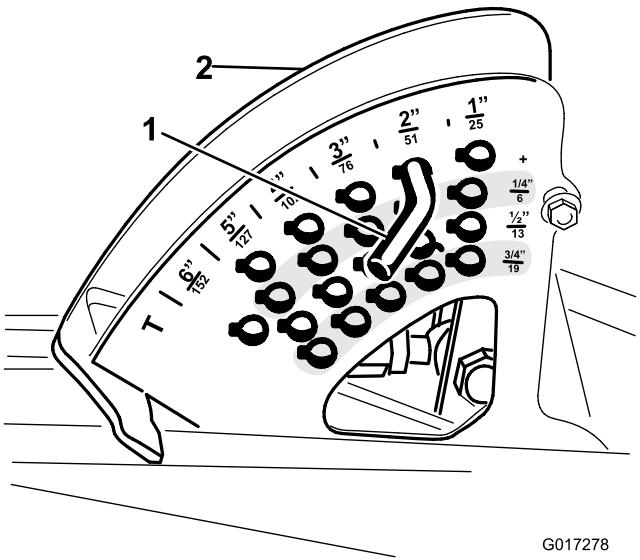
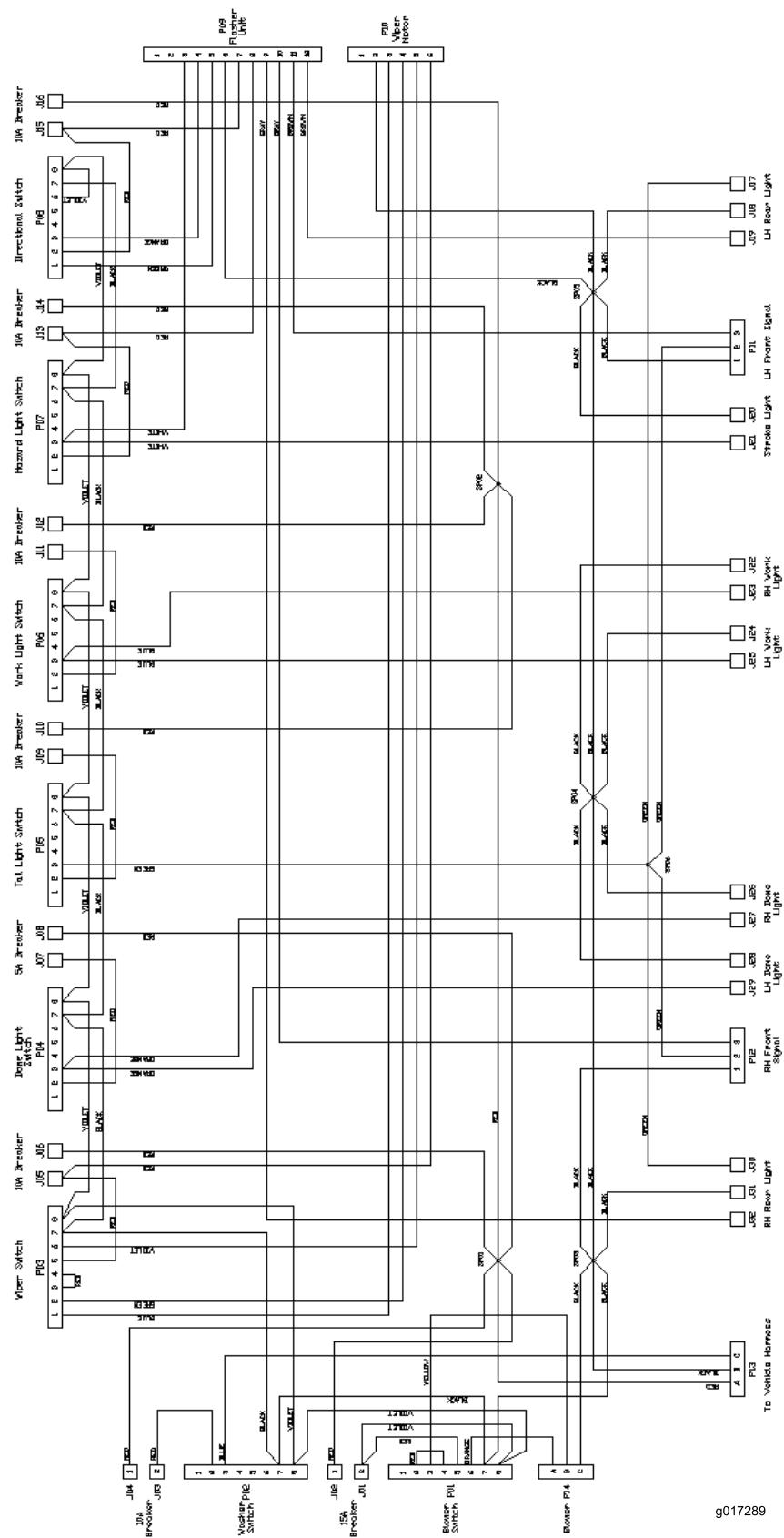


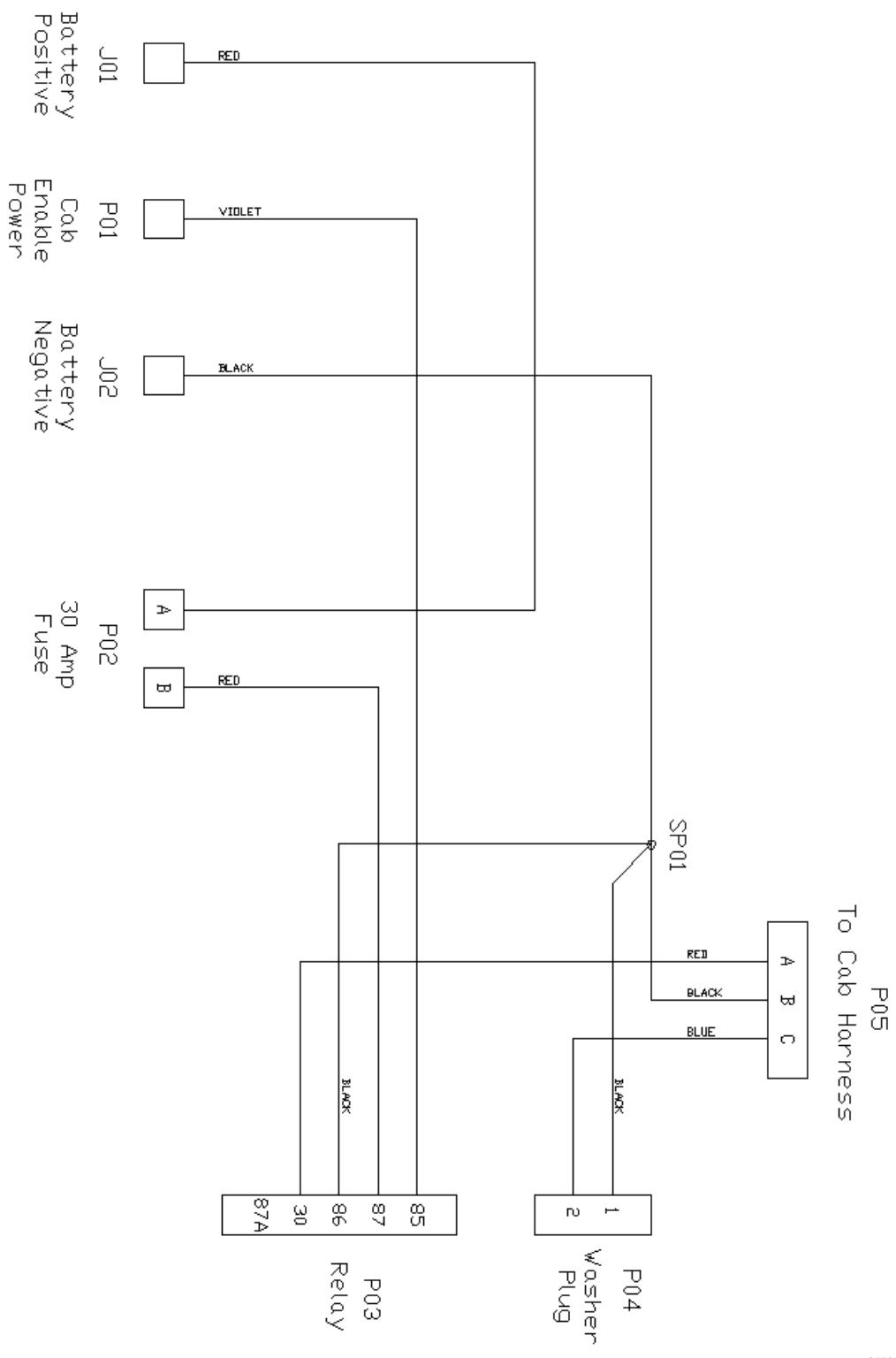
図 31

- | | |
|--------------------------------------|------------|
| 1. 刈高ピン | 2. 刈高ブラケット |
| 7. PTO 駆動シャフトについているグリス注入からグリスアップを行う。 | |
| 8. ヒューズブロックにヒューズ F115Aを取り付ける。 | |



エンクロージャ側ワイヤハーネス (Rev. -)

g017289



車両側ワイヤーハーネス (Rev. -)

g017290

g017290

メモ



Count on it.